

人に知恵 現場に技 120



名南機械製作所

代表者:小林幸雄社長
従業員:75人
本社:名古屋市南区阿原町39
<http://meinan-kikai.co.jp>



宇宙から豆乳まで 「何とかしてみる」で次につなげる

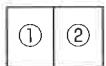
三菱リージョナルジェット(MRJ)、ボーイング787や777、国産ロケット「H2A」「H2B」などの部品を加工する名南機械製作所。長年取り組み、加工のノウハウも持つが、それ以上に緊急品に対応する「機動力」が強みと小林幸雄社長は話す。多い時では月に50件ほどの緊急品の依頼が来る。航空関連以外の業種から依頼を受けることもあり、「何とかしてみる」の精神で挑戦することで受注の業種を広げる。

宇宙ステーション補給機(HTV)って?

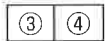
国際宇宙ステーションの日本実験棟(JEM)や他国のステーション乗組員に、水や食料、衣料などの日用品、実験装置などを輸送するための無人の物資輸送補給機。名南機械製作所ではチタンやアルミ部品の製造を担当した。



■ 前ページの写真



- ① ボール盤で穴開け作業をする
- ② 航空機の扉に使用するハンドル部分のサンプル
- ③ 本社工場の近隣にもいくつか建物がある



- ④ 新しく導入したマシニングセンタ

緊急品にも対応するため個々の
技術力、作り上げる能力を磨きま
した

(久末章仁生産部副部長)



四半世紀以上、航空宇宙に携わって

名南機械製作所は、三菱重工業などからの依頼を受け、月に700種類ほどの航空宇宙関連部品やジグを製作する。航空機部品の加工は同社売り上げの半分以上を占めるほどだ。アルミやチタン、難削材の3次元形状の切削加工を得意とする。加工部品にはボーイング777や787、MRJなどの航空機や国産ロケットのH2AやH2B、宇宙ステーション補給機「HTV」など宇宙関連部品がある。

航空機関連の仕事を受け始めたのは1991年のこと。三菱重工業の名古屋航空宇宙システム製作所と取引を始め、25年以上携わり続ける。あらゆる部分の部品加工をしており、形状が難しい場合には独自で切削工具を作ることもあるという。他の業種と比べて最も苦勞するのは、加工精度や複雑加工への対応などではなく「ずっと同じ品質で作り続けること」と航空宇宙事業を任される久末章仁生産部副部長は話す。「航空機などは長ければ数十年同じ機種を作る。そのため一度受注すると、同じ品質で部品を作り続ける必要がある」（久末生産部副部長）。初めて受注する部品に関しては、加工する機械や工法、ジグなどを最初に決めて申請、試作加工を申請通りの工法で進めて検証する。その後は試作品と品質を変えないよう、申請したとおりに加工をする。部品を加工し始めるまでに約1カ月かかることもあるという。また新しい設備を導入した場合には、再度申請作業をやり直す。

同社が他社と比べ、強みと自負する所は緊急品にも対応できる「機動力」という。例えば組み立て時にトラブルが起り、代替りの部品が必要な場合だ。先方の納期が迫った状態で依頼を受けるため、当日中、早い時は朝に図面をもらい昼には納めることもある。多い時には月に50件ほど引き受ける。緊急品への対応で、個人の加工技術も向上するという。

現状維持は衰退と同じ

同社の方針の一つに「どんな依頼も簡単には断らない」がある。長年、航空宇宙関連の仕事をする中で、他業種の企業からの依頼も多い。今まで関わりのなかった業種からの依頼は、新しい仕事につなげられるチャンスという。「自動車や設備機械なども、ものづくりのくくりで言えば同じ」と小林幸雄社長は笑いながら話す。最近では食品関連から、豆乳を搾る機械の部品製造、組み立ての依頼があった。大豆をこす網の部分が非常に難しく、1台を製作するのに1カ月、さらにもう1カ月で40台作った。また近年では名古屋大学や名古屋工業大学などと連携。主に医療や福祉関連の新製品開発のため共同研究を進める。

設備投資にも力を入れており、毎年売り上げの10%ほどを当てるといふ。今年もヤマザキマザックのマシニングセンタなどを導入。作業者の技術だけでなく、新しい設備機械を定期的に導入することで他社との差別化を図る。現在、航空機をはじめとした引き合いは好調だ。設備を増やす理由について小林社長は「従来のやり方をしてはダメ。常に成長することが大事」と話し、さらに「現状維持は衰退と考えている。お客さんから求められる新しいことに、技術や設備で応えたい」と強調する。

(渡部隆寛)

取材記者より

長年、航空宇宙産業に携わるだけあり、会社の中には三菱重工業から優良企業に贈られた賞状があった。その賞状や「こういうロケットの部品を」「あの人工衛星の」などと部品製造について話す姿は、どこか誇らしげだ。航空宇宙関連の仕事で取材した別の企業の人も、目を輝かせて話す姿を思い出す。自分たちの部品が宇宙に飛ぶ。イメージすると確かに自慢したくなる仕事だ。